

◎ニコニコボックス

1. 深瀬会員道南医学会で「東風が吹けば交通事故が多くなる」を発表、会員の皆様から、アイデアを頂き有難うございます。
2. 来月24日クリスマス家族会を開催します。5時から例会、6時から家族会、明細後日、連絡申し上げます。

◎遠藤七飯特別代表

第一回10月28日七飯キーマンと会合、11月10日チャーターメンバー予定者と会合、富田拡大委員、俣野、木屋、市川各会員出席、チャーターナイトに持つて行き、立派なクラブを結成したいと考えております。

◎卓 話

「爪ものがたり」 俣野純夫会員

爪にまつわる話をふたつ・みつつ述べてみたいと思います。小学校では、よく朝会で、爪には、いろいろなバイキンがついているから清潔にしておかねばならないとやかましく指導されたものである。

実際に爪には寄生虫卵やダニなど発見されている。健康体の爪は形も立派で血行がよくなっている。

最近、数年は農薬のおかげで蛔虫の寄生は少くなりました。爪について思い出すことは戦地に行く際に遺品として、爪、毛髪を残して悲痛の決意で出発したものです。

平和になつてから、ダム建設の人々が爪を集めてコンクリートの基礎に埋めて安全を祈るとともに成就を期待している事をきいて感激にうたれました。

戦後20年になつて医者として苦勞していることがあります。それは婦人のマニキュアが多くなつたことです。このため爪の血色がわからなくなつたことです。爪を伸ばす人も多く、血液循環が不完全になると爪の色は紫色となつてきます。爪を見ると心臓の働きが予想されるのです。これがピンク色、金色にぬられていると全くみわけの事が出来なく医者の判断を迷わされるわけです。

次回例会日12月3日です。

次週プログラム

ロータリー財団について

函館東R.C. 太泰会員

REVIEW AND RENEW (F・コンウェイR.I.会長)

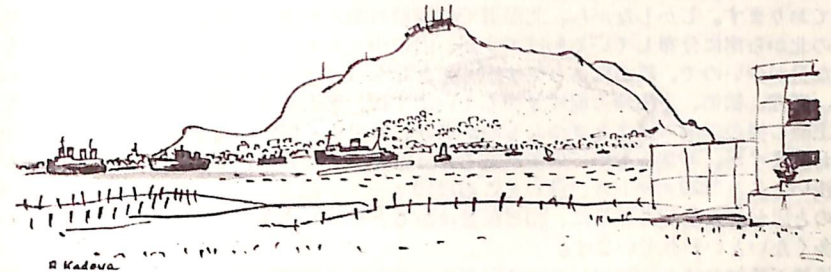
再検討し 刷新しよう



1969. 12. 3

1969~1970 第22号

第277回例会



洞爺丸慰霊碑より函館山を望む

角谷隆一

本日のプログラム

卓 話 ロータリー財団について

函館東R.C. 太泰会員

◎出席報告

11.26 会員数 43名 出席 33名 欠席 10名
前回の出席 会員数 43名 出席 27名 欠席 16名 メーカー 11名 88.37%
他クラブ状況 函館R.C. 95.73% 函館東R.C. 97.65%

第276回例会記録

◎司 会 外山定男会長 ◎斉 唱 我等の生業

◎ピジター 函館R.C. 伊部政次郎君 外11名
函館東R.C. 井村 守治君 外6名

◎ニコニコボックス

1. 小村会員 ホームクラブに仕事の関係上出席出来ず申訳ありません。
2. 成田会員 社員の若い2名が北海道知事より表彰を受ける。

◎情報委員会より 米山梅吉氏の解説

米山梅吉氏は日本における、ロータリーの創立者でありロータリーに対する理解者と情熱の深さは誰しも認め尊敬されている。いわば日本のポールハリスとも云うべき人である。同氏が今から、29余年前翻訳されたポールハリスの「リス、ロータリアン、エージ」で解説されているロータリーについての問題を今後機会ある毎に掲載してみたい。「ロータリーは代表のおよび専門職業人の集結にして、奉仕のロータリー哲学を信じ事

業の真心なる成巧並びに幸福の基礎としての奉仕の理論を考察せんと発起せるものにつき、その地方に於ける明確なる事業または専門職業より一人をとるものなり。各自はその職務及び日常生活の上にこの理論を移し個人として又クラブとして発動的教訓または例証をもつて、ロータリアンは勿論会員外のすべてに理論実際上共にこれが信奉を奨励するものなり」

◎会員卓話 『上磯とセメント』 谷口 会員

日本の国は非常に狭く、資源に乏しく、そのことが工業化する大きなブレーキとなつていましたが、現在に於いてはそれが有利な立場になつており、ご承知の通り、鉄鋼業界のように、原価がどこの国よりも安く、どんどん輸出して発展しているようなわけですが、セメントに関しては、その逆に日本は国が狭いのには石灰石の埋蔵量は非常に沢山ございます。昭和40年の通産局の調査では、予想鉱量を入れまして217億トンとなつております。しかしながら、北海道では面積の割に石灰石の埋蔵量が少なく、日高山脈の北から南に分布しているわけですが、山の中でもあり、大きいのは一カ所にまとまった量が少いので、鉱山はありますが、大きなものではありません。道南につきましては、瀬棚、松前、下海岸方面に分布していますが、まとまった量はございません。ただ、上磯の奥の峯朗にはまとまったものがあり、おそらく数十億トンあるのではないかと思われますが、非常に浅く、ある部分は露出してあり、上に新三紀層がのついで浅いところは20メートル、深いところは50メートル位で、これは断層のためになつたものと思われまふ。この為、相当鉱量はあると思われまふが、実際利用できる場所は多くないといわれています。

皆様ご承知の通り、函館付近には三百年以前から人が住みついていたといわれており神社や田んぼなどからもこのことはわかるのです。従つて峯朗の石灰石も個人的に使われていたものと思われまふ。明治19年から20年頃に、上磯村の有力者である種田金次郎という人が資本金5万円で工場を設立したという伝説がございますがはつきり致しません。種々の資料をみますと、明治23年4月に、函館の有力者達によつて、資本金18万円で北海道セメント株式会社を設立したということになつております。この後、大正末期に至るまで石灰石の採掘方法は手掘りから、抗道を掘つてダイナマイトで爆破するものへ、また峯朗の山から工場までの運搬方法も、馬車鉄道から電気鉄道へと改良され、窯も設立当初のドイツのホフマン方式（これを使つてものになるセメントをつくりだすには大変な苦勞がありました。また完成してからの年生産量も現在の1日分に相当する5千トン位のものでした）のものから、大正4年の浅野セメントの合併を機会に、浅野セメントが特許をとつていた回転窯へと、更には、大正6年には第二工場を設立し、アメリカ、アリスチャーマー会社製の回転窯を購入し年生産量も13万トン（現在の1カ月分に相当する）に達せしめました。これらの経過をもつて大正末期まで至るわけですが、昭和年間に入つてからの話は、いずれ機会がございましたらお話ししたいと思います。

次回例会日12月10日です。

次週プログラム

末 定

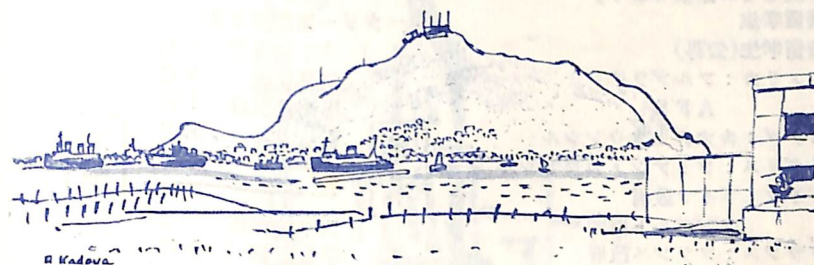
REVIEW AND RENEW (F・コンウエイR.I.会長)
再検討し 刷新しよう



1969. 12. 10

1969~1970 第23号

第278回例会



洞爺丸慰霊碑より函館山を望む

角谷 隆一

本日のプログラム

映画鑑賞 『世界博へ』

◎出席報告

12.3 会員数 43名 出席 33名 欠席 10名
前回の出席 会員数 43名 出席 33名 欠席 10名 メーキャップ 8名 95.35%
他クラブ状況 函館R.C. 92.24% 函館東R.C. 96.47%

第277回例会記録

◎司 会 外山 定男 会長 ◎斉 唱 君が代、奉仕の理想
◎ビ ジ タ ー 太秦 康光君 (函館東R.C. 本日スピーカー)
大江安麿君 (遠藤会員ゲスト)
函 館 R.C. 小熊 三郎君 外13名
函館東R.C. 西村 敏雄君 外14名

◎シニヤ会員紹介

俣野 純夫 会員、新 善次 会員

◎幹事報告

1. 函 館 R.C. 12月25日の例会は、クリスマス家族会のため12月23日17時からに変更、尚明年1月1日と15日は祝日につき休会
2. 函館東R.C. 12月23日の例会は、クリスマス家族会のため17時からに変更、また12月30日の例会は会場の都合でホテルロイヤルに例会場変更
3. ロータリー奨学生より学生の推薦状がまいっております。適当な推薦者が居りまし